

『富山大学人文学部紀要』 総目録・著者名索引

- ・第10号までは、表紙・背表紙に表示している年度と奥付記載の発行年月（翌年3月）がずれているが、第11号以降は発行時点の年で統一表示となっている。
- ・第19号（1993年）までは、原則として年刊、翌年以降は年に2号ずつ刊行している。
- ・第34号（2001年3月）以降の各号は、富山大学人文学部ホームページで本文を公開している。ただし、頁数の後に「非」を付した論文は非公開。
- ・頁数の後に※を付した論文は、縦書き。

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁		
創刊号	1977（1978・昭和53年3月）	手崎 政男	発刊に際して	0※		
		本田 弘	フィヒテ哲学の研究(四) ——一七九四年の『知識学』について—	1～21※		
		岡本 明	フランス革命期のパリ＝コミュニオン 総史(二)	22～53※		
		山口 博	私稿蔵人補任(五)（鳥羽朝一安徳朝）	54～68※		
		三宝 政美	「兎と猫」・「あひるの喜劇」を書いた鲁迅	69～94※		
		Roland Schmidt	ÜBER LESSINGS 'NATHAN DER WEISE'	39～51		
		提山 淑郎	ホーフマンスタールのオーストリア観について	27～38		
		寺津 典子	修正拡大標準理論における意味部門の内部構造について	1～26		
		第2号	1978（1979・昭和54年3月）	本田 弘	フィヒテ哲学の研究(五) ——一七九四年の『知識学』について—	1～24※
中本 昌年	弁証法の周辺(五) 述語論と矛盾の問題			25～41※		
木下 喬	現象学的還元と世界概念			42～57※		
山崎 幸雄	名詞構文におけるハとガについての覚え書			58～66※		
佐藤 進	「漢書雑志」の連語 ——武功爵詔の師古注をめぐる—			67～81※		
吉田 清	シラーのカリアス美論(下)			82～102※		
James B. Brown	"THEORY IN THE ANALYSIS OF REFERENCE"			13～37		
寺津 典子	動詞の補文構造を決定する証拠について：使役動詞・知覚動詞の補文構造を考察して			1～12		
第3号	1979（1980・昭和55年3月）			中本 昌年	論理学論争から(一) ——ハーリヒの見解—	1～22※
		永田 英正	新居延漢簡中の若干の冊書について	23～41※		
		長沼 忠兵衛	名譽革命体制成立期における政治と宗教の相関 ——便宜的遵教防止法の命運を中心に—	43～60※		
		手崎 政男	「草木言語」ということ ——「言挙げ」論への一つのアプローチ—	61～82※		
		藤井 一行	「十月の教訓」問題の一考察 ——トロツキイ生誕一〇〇周年によせて—	83～121※		
		矢沢 英一	チェーホフの「声」と「客観主義」 ——『箱の中の男』『すぐり』から—	123～135※		
		寺津 典子	修正拡大標準理論における削除部門の諸問題について	1～29		
		第4号	1980（1981・昭和56年3月）	中本 昌年	論理学論争から(2) ——ハーリヒの見解に対し—	1～18
夫馬 進	「明末反地方官士變」補論 ——北京圖書館所蔵の若干の明清史料を紹介し、士變と地方公議に論及する—			19～33		
秋山 進午	内蒙古高原の匈奴墓葬			35～60		
鈴木 敏昭	幼児言語における口蓋化について ——症例的研究—			61～69		
都竹 通年雄	飛騨萩原方言の植物語い			71～82		
梶井 陟	現代朝鮮文学への日本人の対応 ——翻訳の足跡とその問題点—			83～104		
三宝 政美	鲁迅『弟兄』について ——弟との訣れ—			105～122		
藤井 一行	『父と子』論争考			123～141		
永田 英正・夫馬 進	高雄義堅先生寄贈圖書目録			143～149		
石田 安弘	W.C.ウィリアムズの詩における「愛」について ——「同一化」の限らないサイクルの内から—			151～182		
草薙 太郎	シェイクスピアの四大悲劇における狂気について			183～194		
寺津 典子	英語の助動詞構造に関するひとつの覚え書き			195～210		
第5号	1981（1982・昭和57年3月）			中本 昌年	論理学論争から(3) ——モルフおよびクラウスの見解—	1～17
				山村 敬	三位一体のドグマの成立と展開 ——西洋と西欧の文脈—	19～35
		楠瀬 勝	江戸時代末期の郷紳の学問と技術の文化的・社会的意義 ——石黒信由遺品等高樹文庫資料の総合的研究—	37～61		
		浅井 亨	アイヌ語における数	63～92		

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		梶井 陟	現代朝鮮文学への日本人の対応(2) —「朝鮮」特輯と文学(1910～1945)—	93～115
		磯部 彰	安南国における『西遊記』の受容 —近世インドシナ地方の中国文学の展開をめぐる—	117～150
		吉田 清	1902年の E.シュタードラー (上)	151～163
		北村 純一	Wolfgang KayserのBallade史	165～183
		矢沢 英一	『貧しい人々』における対話	185～196
		村井 文夫	サン＝マルタンとフランス革命	197～210
		寺津 典子	相関接続詞構造に関する考察	211～225
		Taro Kusanagi (草薙太郎)	ON THE COMEDY OF ERRORS	227～238
		Th.R.Hofmann	Lexical Blocking	239～250
		藤本 幸夫	朝鮮版『朱子語類』攷	251～302※
第6号	1982 (1983・昭和58年2月)	中本 昌年	論理学論争から(4) —バッセングの見解—	1～16
		小谷 仲男	セイロン島におけるアダムの足跡 —イスラム東漸の初期例証として—	17～43
		寺津 典子	修正拡大標準理論における統率と束縛の理論について	45～63
		草薙 太郎	『十二夜』における無意識の love scene	65～81
		村井 文夫	サン＝マルタンと中国 —彼の神話観に関する一試論—	83～102
		矢沢 英一	チェーホフの<筋>をめぐる	103～118
		Th.R.Hofmann	Lexical Blocking, II	119～145
		三寶 政美	魯迅の磚塔胡同時代	148～178※
		山口 幸祐	鷗外『青年』ノート —小泉純一の性格について—	179～190※
		釘貫 亨	上代日本語ラ行音考	192～206※
		長沼 忠兵衛	ピューリタニズムの展開に関する考察 —レクチャーシップ活用運動について—	208～220※
		本田 弘	必然的存在者の概念 —第四の二律背反における無制約者について—	221～242※
第7号 《特定研究報告書》 —日本を基点とした朝鮮・中国・ソ連の地域的特性に関する共同研究—	1982 (1983・昭和58年3月)	本田 弘	序文	0
		楠瀬 勝	特定研究「日本を基点とした朝鮮・中国・ソ連の地域的特性に関する共同研究」の概要	1～4
		長沼 忠兵衛	M.ウェーバーの中国社会観	5～13
		夫馬 進	清代沿岸六省における善堂の普及情況	15～47
		梶井 陟	雑誌『朝鮮』ならびに『朝鮮及満州』における朝鮮文学の位置 —特に近・現代文学をめぐる—	47～83
		矢沢 英一	『帝国文学』とロシア文学 (付資料・『帝国文学』におけるロシア文学関係記事一覧)	85～112
		Akasaka, Masaru (赤坂賢) Asai, Tooru (浅井亨) Fuji, Kazuyuki (藤井一行) Fujimoto, Yukio (藤本幸夫) Hofmann, Thomas R. Isobe, Akira (磯部彰) Kuginuki, Tooru (釘貫亨) Satoo, Susumu (佐藤進) Suzuki, Toshiaki (鈴木敏昭) Tsuzuku, Tsuneo (都竹通年雄) Wazaki, Yooichi (和崎洋一) Yazawa, Eiichi (矢沢英一)	Preliminary survey of the languages around the Japan Sea	113～118
		秋山 進午	海獣葡萄鏡と走獣葡萄鏡	119～175
		(夫馬進・梶井陟・藤本幸夫・秋山進午・和崎洋一・楠瀬勝・木下良・三寶政美・長沼忠兵衛・浅井亨・和田晴吾・小谷仲男・都竹通年雄・山口博)	彙報	177～180
		鎌田 元一・佐藤 進・磯部 彰	『續紀集解』引用漢籍索引	182～426※
		藤本 幸夫	眉巖過眼書録	428～446※
		三寶 政美	中国の教科書管窺 —文革後の国語(小学)教科書をめぐる—	447～472※

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁		
第8号	1983 (1984・昭和59年2月)	中本 昌年	論理学論争から(5) —アジュクエヴィチおよびシャブの見解—	1～16		
		服部 良久	中世オーストリアの身分制的構造 —領邦国家形成史としてのシュテンデ制前史—	17～52		
		梶井 陟	日本における朝鮮近・現代小説(戯曲を含む)の作家別翻訳作品年譜	53～96		
		小川 洋通	格文法論	97～115		
		奥田 平八郎	「ハムレット」とエリオット	117～136		
		草薙 太郎	John Donneの「ゆるぎなきものへの変身」	137～150		
		石田 安弘	「愛のカルバリを経て」 —エミリ・ディキンソンのポエティクス—	151～185		
		Kiyoshi Yoshida (吉田清)	Partizipialkonstruktion 1	187～224		
		北村 純一	Bänkelsang について	225～241		
		矢沢 英一	チェーホフ劇の構造	243～256		
		Th. R. Hofmann	A Restatement of Lexical Blocking	257～267		
		磯部 彰	「元本西遊記」の形態について	270～296※		
		三宝 政美	『両地書』第四集原信について —その訳注と解説—	297～334※		
		山口 幸祐	芥川龍之介の《心境小説》 —『蜃気楼』及び『年末の一日』『点鬼簿』など—	335～352※		
		櫛木 謙周	律令制下における役丁資養制度 —仕丁・衛士を中心に—	353～374※		
		木下 喬	アーベルの超越論的語用論	376～390※		
		本田 弘	必然的存在者の概念(二) —「第四の二律背反」における無制約者について—	392～414※		
		第9号	1984 (1985・昭和60年2月)	中本 昌年	論理学論争から(6) —ライの見解—	1～19
				山村 敬	オーソドクス教会概説試論 —ロマの普遍性の文脈—	21～35
神前 進一	被合併山村における挙家離村の展開過程 —富山県八尾町大長谷・仁歩地区の事例—			37～78		
平田 純	「死んだ男」の場合			79～96		
小川 洋通	主語・動詞・目的語			97～112		
草薙 太郎	シェイクスピアの『ソネット集』 —「目」の用例にみるその社会性—			113～133		
提山 淑郎	「若きウィーン」について			135～150		
藤井 一行	ヴォロンスキイと「赤い処女地」 —生誕100周年によせて—			151～191		
Th. R. Hofmann	The Differences between “Overlapping” & “Logical Conjunction”			193～207		
Gregor Häfziger	Brecht —über Faschismus und revolutionäre Dramaturgie			209～228		
磯部 彰	加陽所見宋元版・旧鈔本・古活字本提要 —金沢市立図書館蔵本及び石川県立郷土資料館蔵本について—			230～288※		
櫛木 謙周	奴婢逃亡論ノート			289～302※		
第10号	1985 (1986・昭和61年2月)			小谷 仲男	中国都市城壁の源流 —古代西アジア、インドと関連して—	1～42
				服部 良久	中世上オーストリアにおけるラントとヘルシャフト —領域支配の初期身分制的構造—	43～92
		和崎 洋一	東アフリカの鳥名 —「スワヒリ化」過程の一考察	93～121		
		鈴木 敏昭	語構造の習得過程について —音の単純化の克服過程に関する研究—	123～139		
		川本 栄一郎	富山・新潟・岐阜県境地帯における待遇表現の場面差・年齢差・地域差	141～158		
		小川 洋通	語用論	159～176		
		奥田 平八郎	ハーディの『霸王ら』について	177～188		
		草薙 太郎	『マクベス』と『ソネット集』	189～210		
		石田 安弘	F.G.ロルカ “Oda a Walt Whitman” をめぐって —ホイットマンの一つの受容—	211～224		
		北村 純一	Politische Lyrik について	225～246		
		村井 文夫	幻想物語としてのカゾット「恋する悪魔」	247～280		
		Th. R. Hofmann	Noun Classes in English	281～319		
		磯部 彰	大聖寺藩における漢学受容の研究	362～321※		

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
第11号 《特定研究報告書》 —東アジア世界の生成、発展および他文明との関係についての研究—	1986 (昭和61) 年3月	梶井 陟	研究報告集の刊行にあたって	1～4
		夫馬 進	清代前期の育児事業	5～41
		梶井 陟	「黒川勇文庫」について —ある日本人にとつての朝鮮—	43～71
		平田 純	ヘルン文庫所蔵 ハーン著作一覧	73～126
		矢沢 英一	ネミローヴィチ=ダーンチェンコの『三人姉妹』演出(1940年)について	127～154
		吉田 清	日本とドイツの文学における色彩(上)	156～194※
		三宝 政美	魯迅と礼 —父・藤野先生の場合—	196～224※
		藤本 幸夫	朝鮮童蒙書 —漢字本『類号』攷、附影印	226～256※
		山口 幸祐	志賀直哉の《ハムレット》解釈・素描	257～276※
		釘貫 亨	仮名の分布より見た /o//ø/ の対立崩壊の諸問題	263～302※
第12号	1987 (昭和62) 年2月	磯部 彰	大聖寺藩舊蔵漢籍の研究(加賀市立図書館所蔵聖藩文庫漢籍分類目録)	304～540※
		榊原 謙周	「京中賑給」に関する基礎的考察	1～31
		赤阪 賢	ザイール東部、キブ (Kivu)湖西岸地域における市 (Market)の分布	33～60
		川本 栄一郎	富山・新潟・岐阜県境地帯における「買った」と「借りた」の方言分布とその変遷	61～78
		小川 洋通	対人関係レトリック	79～96
		福田 立明	Edgar A.Poe と死後の〈生〉	97～112
		草薙 太郎	『ロミオとジュリエット』と『ソネット集』	113～130
		Th. R. Hofmann	Reinterpretation Rules	131～144
		M. Kugelmeier	Günter Eich : Die Maulwürfe. Eine Beschreibung	145～154
		磯部 彰	読書人層の『西遊記』受容について —明後期の諸文芸との関係をめぐって—	156～190※
第13号	1988 (昭和63) 年2月	山口 幸祐	志賀直哉『和解』 —〈鎮魂〉のモチーフによる試論—	192～204※
		中本 昌年	経験と実在 —西田幾多郎『善の研究』を読む—	206～220※
		小谷 仲男	死者の口に貨幣を含ませる習俗 —漢唐墓葬における西方的要素—	1～19
		服部 良久	中世ドイツにおける領邦国家と騎士身分	21～53
		赤阪 賢	市(いち)の民俗 —西アフリカの事例から—	55～71
		川本 栄一郎	北陸地方における「かぼちゃ」の方言分布とその歴史	73～88
		小川 洋通	ていねいさの諸相	89～107
		草薙 太郎	『尺には尺を』と『ソネット集』	109～127
		北村 純一	ブレヒトの詩における東洋	129～153
		提山 淑郎	ルネサンス期のドイツ演劇	155～186
第14号	1989 (平成元) 2月	矢沢 英一	チェーホフ劇の時間のモチーフ	187～200
		Elizabeth Balestrieri	The Lazarus Factor in André Malraux and T.E.Lawrence	201～216
		磯部 彰	清代の『西遊記』と民間芸能 —『西遊記』表現形式の研究(Ⅱ)—	217～246※
		山口 幸祐	《暗夜行路》評註(一) —「序詞」に関する二、三の私注—	248～276※
		中本 昌年	実在と人格 —西田幾多郎『善の研究』を読む—	278～292※
		本田 弘	カントの物自体の概念 —現象と物自体との区別について—	293～326※
		永井 龍男	『カテゴリー論』におけるπαρόνομονの問題	1～18
		川本 栄一郎	富山県における「ぶり」の成長段階名の分布と変遷	19～33
		釘貫 亨	有坂秀世『音韻論』成立の一断面 —ブラハ学派との関わりから—	35～62
		小川 洋通	形容詞比較構文の諸相	63～90
奥田 平八郎	禁断の木の実	91～109		
吉田 清	グリルパルツァーと音楽	111～127		
北村 純一	Buckower Elegien	129～155		
Elizabeth Balestrieri	IMAGES OF WOMEN IN WALLACE STEVENS' POETRY	157～168		
磯部 彰	伝奇四十種本『楊東来先生批評西遊記』の成立時期とその刊行年代 —世徳堂刊『新刻出像官板大字西遊記』との関係をめぐって—	170～192※		
三宝 政美	『魯迅日記』(Ⅰ) —行方知れずの日記(一九二二年)をめぐって—	194～220※		
山口 幸祐	《暗夜行路》前篇第一—」評註 —「草稿」の検討など—	221～250※		
中本 昌年	宇宙の経験 —西田幾多郎『善の研究』を読む—	251～264※		

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁		
第15号 《特定研究報告書》 —日本・東洋と西洋における文化構造の比較と文化交流に関する総合的研究—	1989 (平成元)年3月	秋山 進午	研究報告集の刊行にあたって	1～3		
		樺木 謙周	技術官人論 一日中手工業労働力編成比較の一視点—	7～45		
		河村 貞枝	ヴィクトリア後期及びエドワード期の家族史の一考察—中流家庭の女子教育をめぐる—	47～62		
		服部 良久	中世オーストリアにおけるランデスヘルシャフトと貴族支配—「ヘルシャフト」と騎士—	63～136		
		赤坂 賢	地域社会における中間年齢層の結集について—城端・八尾・伏木の曳山祭りを中心に—	137～163		
		佐藤 進	近十年中国期刊音韻・方言学論文目録(稿)	165～200		
		平田 純	ヘルン文庫所蔵 ヘルン関連文献目録	201～283		
		草薙 太郎	能とシェイクスピアをどう結びつけるか	285～325		
		吉田 清	日本とドイツの文学における色彩(中)	326～346※		
		磯部 彰	『西遊記』研究総覧稿	348～542※		
		三宝 政美	中国におけるチェーホフ 一九二〇年代の翻訳・紹介を通して—	543～570※		
		檀上 寛	方孝孺の理想的国家観 一前近代中国の連帯の位相—	572～600※		
第16号	1990 (平成2)年2月	水内 俊雄	都市計画理論と公共サービスの地理学	1～21		
		川本 栄一郎	北陸地方における「熊手」の方言分布とその変遷	23～50		
		小川 洋通	英語のモダリティ	51～70		
		草薙 太郎	『リア王』と『ソネット集』	71～90		
		Elizabeth Balestrieri	BREAKING THE SILENCE : CONTEMPORARY AMERICAN WOMEN ETHNIC WRITERS	91～101		
		磯部 彰	『西遊記』研究専著・論文目録	102～136※		
		三寶 政美	魯迅と弟嫁たち 一「聞きがき」をめぐる—	137～160※		
		中本 昌年	善について 一西田幾多郎『善の研究』を読む—	162～176※		
		木下 喬	現象学の現象学 一『第六デカルト的省察』をめぐる—	177～188※		
		第17号	1991 (平成3)年2月	小谷 仲男	クシャン王朝と漢代西域	1～22
				河村 貞枝	イギリスにおける婦人参政権運動の考察—「婦人参政権協会国民同盟」をめぐる(その一)—	23～52
根津 由喜夫	十世紀ビザンツ帝国の権力構造 一人間の関係の視角から—			53～76		
前川 要	日本中・近世の都市と村落—考古学から見た「都市」概念の再検討—			77～103		
鈴木 敏昭	イメージの中の方言と標準語 一大阪府豊中市での調査から—			105～125		
川本 栄一郎	北陸地方における「いろり」の方言分布とその変遷			127～150		
中村 雅之	孫愐『唐韻』について			151～168		
草薙 太郎	『トロイラスとクレシダ』と『ソネット集』			169～191		
福田 立明・小林千重乃	ふたつの老女の物語 一AndersonとFaulknerの短編のtextuality—			193～208		
磯部 彰	『五天竺』の研究—中国の地方劇・皮影戯・木偶戯との比較検討を通して—			210～254※		
三寶 政美	魯迅と弟嫁たち(続)			256～282※		
第18号	1992 (平成4)年2月			小谷 仲男	クシャン王朝勃興史に関する新資料—ティリア・テベの黄金遺宝—	1～25
				河村 貞枝	イギリスにおける婦人参政権運動の考察—「婦人参政権協会全国同盟」をめぐる(その二)—	27～50
		前川 要	日英都市考古学の比較研究—埋蔵文化財行政の問題点を中心にして—	51～67		
		川本 栄一郎	富山県における「ぬかみそ漬け」の方言分布とその変遷	69～88		
		中村 雅之	中古音重紐の音韻論的解釈をめぐる	89～104		
		奥田 平八郎	ピエタへの道	105～131		
		草薙 太郎	『恋の骨折損』と『ソネット集』	133～149		
		矢澤 英一	トフストノーゴフのチェーホフ劇演出について	151～170		
		村井 文夫	ラムゼイの「シリユスの旅」をめぐる	171～188		
		Elizabeth Balestrieri	Three Detroit Poets : Philip Levine, Carolyn Forché and Brad Leithauser	189～204		
		Georg J. Anker	Die Bedeutung L.Wittgensteins für eine kritische Texttheorie.	205～223		
吉田 清	日本とドイツの文学における色彩(下)	225～278※				

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
第19号	1993 (平成5) 年3月	磯部 彰	近世における越中国の漢学	280 ~ 302※
		田村 俊介	盛夏の螢そのほか 一幻巻のなかの勢語一	304 ~ 320※
		中本 昌年	歴史的限定と場所的限定の統合 一西田幾多郎「私と汝」を読む一	322 ~ 336※
		永井 龍男	共通感覚および共通感覚対象における<共通性>について	1 ~ 20
		小谷 仲男	ガンダーラ説話図と漢訳経典 一「比丘とガチョウ」と「樹に縛られた子供」一	21 ~ 43
		根津 由喜夫	アレクシオス=コムネノスの従者団	45 ~ 71
		川本 栄一郎	北陸地方における「親類」の方言分布とその変遷	73 ~ 89
		小川 洋通	動詞の型	91 ~ 115
		草薙 太郎	シェイクスピアのドラマ作品と『ソネット集』の相関 『終りよければすべてよし』と『ウィンザーの陽気な女房たち』の場合	117 ~ 137
		吉田 清	1902年のエルンスト・シュタードラー (下)	139 ~ 173
		北村 純一	und考 一Ballade における und一	175 ~ 203
		村井 文夫	サン=マルタンの「クロコディル」 一二つの比喩をめぐる一	205 ~ 216
		Barbara Reichl	„Der Dorus aus Istrien“ 一Auf den Spuren eines verlorenen Gedichtbuchs aus dem 17. Jahrhundert	217 ~ 243
		磯部 彰	中国の影絵人形芝居とその人形 一研究史及び現在の中国側研究情況を中心に一	246 ~ 280※
		三寶 政美	周福清『恒訓』の世界 一その訳注と解説一	282 ~ 312※
		田村 俊介	光源氏物語現行形態試論第三 一後期巻々を中心に一	314 ~ 350※
		山口 幸祐	芥川龍之介《地獄変／奉教人の死》 一(語り手)という方法一	351 ~ 368※
		釘貫 亨	古代語動詞内部形式による範疇的意味表示の発達過程	369 ~ 394※
		谷井 俊仁	『明南京車駕司職掌』の研究	395 ~ 432※
本田 弘	カントの自己意識(一) 一先験的統覚の自発性一	434 ~ 458※		
第20号	1994 (平成6) 年3月	小谷 仲男	ガンダーラの瑜伽師と弥勒信仰	1 ~ 21
		鈴木 敏昭	多義語の構造 一サス、オチル、ヒクの場合	23 ~ 43
		海老原 直邦・岩永 誠	文字の心的回転における情報処理 一作業記憶の働きを中心として一	45 ~ 59
		立川 健治	幕末～文明開化期の競馬 一横浜・根岸競馬をめぐる一	61 ~ 125
		筒井 洋一	欧州冷戦体制の形成と英国外交政策決定過程1945-47 一ドイツ占領と帝国の防衛をめぐる一	127 ~ 145
		中村 雅之	『蒙古字韻』と『古今韻会举要』	147 ~ 163
		奥田 平八郎	海の声	165 ~ 188
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	The Two Traditions (British and American) in Studying Shakespeare	189 ~ 204
		福田 立明	冥界下り(ネクタイア)への導入秘儀(イニシエーション) 一Go Down, Moses論 I一	205 ~ 218
		高安 和子	存在文と外置文における格付与について	219 ~ 226
		大工原 ちなみ	(非)帰還の主人 一ユダヤ文学の(アンティ)ヒーロー	227 ~ 239
		宮内 伸子	ヘルマン・ヘッセ作『荒野の狼』における人間の身体的側面の役割	241 ~ 251
		成田 節	結合価の記述と説明 一前置詞格目的語の場合	253 ~ 262
		村井 文夫	ハーンとクレオール 一「へるん文庫」の形成をめぐる一	263 ~ 284
		矢澤 英一	ロシアの農奴劇場 (I)	285 ~ 315
		呉 麗艶	曹雪芹筆下の兩位女性	317 ~ 326
		伊藤 美重子	敦煌の「駆儼文」について	329 ~ 360※
		磯部 彰	楊致和編『唐三蔵出身(西遊)全伝』の図像を中心とした版本研究	361 ~ 390※
		本田 弘	カントの自己意識(二) 一先験的統覚の自発性一	392 ~ 422※
第21号	1994 (平成6) 年9月	岡村 信孝	客観性と必然性 一カテゴリーの客観的妥当性に対するカントの論証の批判的検討	1 ~ 14
		小谷 仲男	ガンダーラ彫刻にみられる建築意匠 一肘木と欄楯一	15 ~ 27
		Ryōichi KATSUNO (勝野良一)	Essai sur Malicroix d' Henri Bosco (I)	29 ~ 76
		岸田 文隆	バリ国民図書館所蔵の満漢「千字文」について(I)	77 ~ 133
		呉 麗艶	“孽障”與“蠹虫” 一淺談《紅樓夢》中的兩類“不肖子孫”	135 ~ 158
		Masami Tsunekawa (恒川正巳)	History and the Postmodern Perspective of Literary Criticism	159 ~ 169

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
第22号	1995 (平成7) 年3月	高安 和子	右方転位構文とIT外置文	171 ~ 179
		磯部 彰	清朝内府本『江流記』の特徴について	182 ~ 214※
		小谷 伸男	ウシがブツダの足を舐める話 —新出土のガンダラ石彫—	1 ~ 16
		岩井 瑞枝	フオンテヌブロー派研究 —フオンテヌブロー派とヴァロワ朝末期の<王の入市式>—	17 ~ 46
		Nobutoshi Nakagawa (中河伸俊)	Social Constructionism in Japan:Toward an Indigenous Empirical Inquiry	47 ~ 61
		立川 健治	鹿鳴館時代の競馬 —明治12 ~ 25年 資料編	63 ~ 103
		岸田 文隆	パリ国民図書館所蔵の満漢「千字文」について(2)	105 ~ 139
		呉 麗艶	“女性”的悲哀 —浅論三位女性	141 ~ 155
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	The Two Traditions (British and American) in Studying Shakespeare 2 (シェイクスピア研究の二つの (英国とアメリカ) 伝統 その二)	157 ~ 171
		Masami Tsunekawa (恒川正巳)	History and the Revision of Oedipal Reality	173 ~ 185
		福田 立明	死者の音信 (おとづれ) —Go Down, Moses 論 II—	187 ~ 202
		大工原 ちなみ	マラマッドの未完の遺作 <i>The People</i> を読む	203 ~ 211
		高安 和子	名詞句と主題役	213 ~ 222
		Yuzuru Okumura (奥村謙)	The Dialects of Cambridge, St John's College, MS B 12 (34)	223 ~ 237
		別本 明夫	『姉妹』の構成に関する考察	239 ~ 259
		宮内 伸子	リヒテンベルクについての「控え帖 (Sudelbuch)」	261 ~ 269
村井 文夫	「へるん文庫」の形成をめぐる(II) —来日以前のハーンとロニー—	271 ~ 287		
矢澤 英一	ロシアの農奴劇場(2)	289 ~ 309		
三宝 政美	近・現代中国人の見た日本(一) —黄廬隠『東京小品』(上)	311 ~ 334※		
第23号	1995 (平成7) 年8月	湯川 純幸	言語によるコンテクストの構築 —エリノア・オックスの談話研究をてびきとして	1 ~ 31
		中河 伸俊	「天皇表現」をめぐる三者関係型過程 —「T県立近代美術館問題」の構築主義的考察	33 ~ 58
		立川 健治	横浜の競馬 —1862 ~ 1878年 資料編	59 ~ 95
		太田 茂徳	「近代期の遊郭と都市」	97 ~ 112
		岸田 文隆	(資料景印)パリ国民図書館所蔵満漢「千字文」	113 ~ 132
		彭 国躍	近代中国語敬辞体系の理論的枠組み —陰陽世界観に基づく対人関係の認知システム—	133 ~ 166
		Masami Tsunekawa (恒川正巳)	Synthesis and Suppression:Traces of Asceticism in E.M.Forster's <i>The Longest Journey</i>	167 ~ 180
		神徳 昭甫	日本文学の中の「生」と「死」(1) —「アニミズム」の復権—	181 ~ 198
		Karen Fedderholdt	<i>Cultivating An Awareness of Learner Strategies in Order to Create Learner Autonomy</i>	199 ~ 208
		磯部 彰	越中国学所蔵宝巻・宝典について	209 ~ 232※
		山口 幸祐	一葉日記《若葉かげ》覚書	234 ~ 246※
		岡村 信孝	カントと規範的倫理学の基礎づけの問題(上)	1 ~ 17
		第24号	1996 (平成8) 年3月	永井 龍男
ASAI, Tohru (浅井亨)	sine sinotca (A)			39 ~ 50
一ノ瀬 恵	コリヤーク語の名詞形態法			51 ~ 75
立川 健治	外からみた我々の身体性(1) かつての裸体と混浴			77 ~ 98
筒井 洋一・宮嶋 俊明	インターネットと国際関係研究との接点 —新しい学術コミュニケーションの方法—			99 ~ 108
太田 茂徳	「性的身体」について			109 ~ 115
Mary Ann Mooradian (ムラジアン・マリアン)	Students with Cameras for a Multicultural Campus			117 ~ 124
齋藤 孝滋・高稲 環	富山県砺波市における言語動態調査報告 —母音のスペクトル分析による考察と「おつり」の語誌—			125 ~ 153
彭 国躍	近代中国語敬辞の文脈条件の一考察			155 ~ 169

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	The Two Traditions (British and American) in Studying Shakespeare and Japanese <i>Kabuki-Noh</i> Tradition (シェイクスピア研究における二つの(英国とアメリカ) 伝統と日本の歌舞伎・能の伝統)	171 ~ 183
		Masami Tsunekawa (恒川正巳)	Representation of Homosexuality in E.M.Forster's <i>Maurice</i>	185 ~ 205
		神徳 昭甫	日米文学の中の「生」と「死」(2) —「アニミズム」の復権—	207 ~ 224
		藤田 秀樹	群衆行動のエロティシズム —John Steinbeckの“The Vigilante” 論	225 ~ 232
		高安 和子	英語の接頭辞 <i>RE</i> —について	233 ~ 248
		村井 文夫	ハーンの「異邦文学残葉」をめぐって	249 ~ 270
		佐藤 朋之	記憶の遷代 —泉鏡花『龍潭譚』について—	271 ~ 288
		伊藤 美重子	敦煌の婚礼資料について	289 ~ 324※
		磯部 彰	『唐僧取経図冊』に窺う「西遊記」物語 —大唐出界から西天竺入国へ—	325 ~ 338※
		三宝 政美	近・現代中国人の見た日本 —黄廬隠「東京小品」(下)	340 ~ 362※
第25号	1996 (平成8) 年9月	Sumiyuki Yukawa (湯川純幸)	Epistemic Stance and Discursive Construction of Self in a Japanese Conversation	1 ~ 20
		一ノ瀬 恵	コリヤーク語テキスト(1)	21 ~ 53
		宇野 隆夫	西洋造船・海運史 —丸木舟・皮舟・パピルス舟から鋼鉄蒸気船への歩みと社会変革(上)—	55 ~ 122
		立川 健治	神戸居留地における競馬(一)	123 ~ 145
		太田 茂徳	検梅制度と遊女(1)	147 ~ 156
		Mary Ann Mooradian (ムラジアン・マリアン)	Gengo Hyougen(言語表現) : A New Learning Style for a Japan with Global Reach and Global Responsibility	157 ~ 164
		神徳 昭甫 訳	日米文学の中の「生」と「死」(3) —「アニミズム」の復権—	165 ~ 177
		高安 和子	話題化と補文標識 <i>THAT</i>	179 ~ 191
		別本 明夫	フェルディナント・フォン・ザールの初期短篇について	193 ~ 210
		彭 国躍	近代中国語敬辞の意味ネットワーク	211 ~ 220
		Karen Fedderholdt	First Semester Writing At University : Problems, Culture, Solutions	221 ~ 232
		Sabine Lobe	Entnazifizierung in Deutschland (1944–1951) Eine Literaturstudie	233 ~ 252
		伊藤 美重子	敦煌本「麴嗣書」について	253 ~ 264※
		磯部 彰	『唐僧取経図冊』の絵画順序とその画題 —図版編—	266 ~ 300※
		田村 俊介	青表紙本改訂の必要性 —総角巻の「暗し」と「聞こゆ」をはじめとして—	301 ~ 318※
		中 純夫	王畿の四無説について	319 ~ 342※
第26号	1997 (平成9) 年3月	湯川 純幸	言語とジェンダー研究の新たな地平 —ジェンダー化された自己と権力関係の構築の実践を見る—	1 ~ 30
		加藤 重広	日本語の連体数量詞と遊離数量詞の分析	31 ~ 64
		宇野 隆夫	西洋造船・海運史 —丸木舟・皮舟・パピルス舟から鋼鉄蒸気船への歩みと社会変革(中)—	65 ~ 125
		丹羽 弘一	学校から路上へ	127 ~ 139
		立川 健治	神戸居留地における競馬(二)	141 ~ 213
		太田 茂徳	横浜梅毒病院と検梅 —検梅制度と遊女(2)—	215 ~ 224
		山本 富美子	母語干渉による異文化間コミュニケーション上の問題 —中国語系日本語学習者の中間言語分析より—	225 ~ 237
		小川 洋通	英語の補文構造	239 ~ 260
		恒川 正巳	解釈の内と外 —文学的読みの境界線をめぐって—	261 ~ 278
		神徳 昭甫 訳	翻訳：北米インディアンの生活(1) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	279 ~ 338
		大工原 ちなみ	Cynthia Ozickの <i>The Shaul</i> について —苦難のメタファーとメモリー	339 ~ 351
		別本 明夫	フェルディナント・フォン・ザールの『タムピ』における決定論的展開	353 ~ 368
		彭 国躍	敬語の類型論的対照研究 —日本語、英語、中国語を基本モデルとする—	369 ~ 382
		伊藤 美重子	敦煌写本「崔氏夫人訓女文」について	383 ~ 396※
		中 純夫	王畿の講学活動	398 ~ 478※

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
第27号	1997 (平成9) 年8月	鈴木 敏昭	多義語におけるメタファの働きについて	1 ~ 18
		加藤 重広	ゼロ助詞の談話機能と文法機能	19 ~ 82
		齋藤 孝滋・麻生 亜希恵 竹内 詩乃	北陸地域言語調査報告	83 ~ 104
		別本 明夫	『ギネーヴラ』における枠の意味	105 ~ 121
		Sabine Lobe	Die Rezeption des Kritischen Rationalismus in der ehemaligen DDR	123 ~ 154
		田村 俊介	光源氏物語現行形態試論第五 — 「一人の語り手」説と大鏡の方法—	155 ~ 174※
第28号	1998 (平成10) 年3月	加藤 重広	複数の品詞機能を兼務する形態素の統辞タイプ — 類型化の試案と論点の整理—	1 ~ 30
		宇野 隆夫	西洋造船・海運史 — 丸木舟・皮舟・パピルス舟から鋼鉄蒸気船 への歩みと社会変革(下)—	31 ~ 119
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	The Two Traditions(British and American) in Studying Shakespeare and Japanese Kabuki-Noh Tradition 2	121 ~ 132
		Hideki Fujita (藤田秀樹)	Liminal Ambiguity in John Steinbeck's "The Snake"	133 ~ 137
		村井 文夫	サン＝マルタンと共和暦三年のエコル・ノルマル	139 ~ 159
		朱 継征	存在文における「着」と「了」について	161 ~ 168
		Рогозная Н.Н. (ロゴズナヤ・ニーナ)	ИНТЕРФЕРЕНЦИЯ В РУССКОЙ РЕЧИ ЯПОНЦЕВ	169 ~ 176
大野 圭介	『山海経』海内四経の成立	177 ~ 196※		
第29号	1998 (平成10) 年8月	加藤 重広	シニフィアンとシニフィエの系譜 — von Humboldtとde Saussureを中心に—	1 ~ 12
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(2) — 23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	13 ~ 71
		Hideki Fujita (藤田秀樹)	Cannibalism in Tennessee Williams's "Desire and the Black Masseur"	73 ~ 80
		Takashi NISHIMURA (西村隆)	Imperialism and the Negation of "Absolute Individualism" : Joseph Conrad's <i>Victory</i> and J.A.Hobson's <i>Imperialism : A Study</i>	81 ~ 97
		Karen Fedderholdt (フェダーホルト・キャレン)	International Email Exchanges in Composition Classes	99 ~ 105
		Рогозная Н.Н. (ロゴズナヤ・ニーナ)	УДАРЕНИЕ в монгольском и русском языке	107 ~ 121
第30号	1999 (平成11) 年3月	鈴木 景二	立山信仰と雄山山頂の遺物	1 ~ 15
		小谷 仲男	シノ・カロシュティ貨幣の年代 —付録『後漢書』西域伝訳注—	17 ~ 48
		呉人 恵	チュクチ・カムチャツカ語族の母音調和に関する一考察	49 ~ 64
		加藤 重広	日本語関係節の成立要件(1) — 先行研究の整理とその問題点—	65 ~ 111
		岸田 文隆	漂流民の伝えた朝鮮語 — 島根県高見家文書「朝鮮人見聞書」について—	113 ~ 143
		宮内 伸子	リヒテンベルク『ホーガース銅版画の詳細な解説』より「ある娼 婦の生涯」を読む：その解説の眼差しについて	145 ~ 164
		Рогозная Н.Н. (ロゴズナヤ・ニーナ)	Лингвистический анализ просодической интерференции в русской речи иностранцев	165 ~ 225
		大野 圭介	『山海経』大荒・海内経原始	228 ~ 258※
		田村 俊介	大君試論	260 ~ 282※
		田畑 真美	「荻生徂徠における自己成就 —〈気質不変論〉を軸に—	284 ~ 304※
第31号	1999 (平成11) 年8月	田畑 真美	仁齋における自他の隔絶と合一の問題について	1 ~ 22
		小谷 仲男	安息雀(ダチョウ)の原産地 — 『後漢書』西域伝、条支国補注—	23 ~ 44
		鈴木 敏昭	多義語における類似性と差違	45 ~ 69
		加藤 重広	日本語関係節の成立要件(2) — 文法論的要因と語用論的要因—	71 ~ 156
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(3) — 23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	157 ~ 191
		立川 健治	駆け抜けた馬たち～幕末期～鹿鳴館時代(1)	193 ~ 218
		Takashi NISHIMURA (西村隆)	Neither East nor West : Joseph Conrad's Writings on Russia in 1905-1906 and Contemporary British Writers	219 ~ 230
		FUJITA Hideki (藤田秀樹)	Rape and the "Good-Neighbor Policy" : Sexual Politics in Tennessee Williams's <i>27 Wagons Full of Cotton</i>	231 ~ 237

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		時 衛国	中国語と日本語における程度副詞の対照研究 —「比較」と「比較的」—	239～261
		Sabine Lobe	"Globalisierung" und "Global Issues"	263～289
		Рогозная Н.Н. (ロゴズナヤ・ニーナ)	МЕТОДИЧЕСКИЕ РЕКОМЕНДАЦИИ	291～357
		田村 俊介	伊勢物語三段階成立論続貂 一口承文芸から書承文芸へ	370～360※
第32号	2000(平成12) 年3月	永井 龍男	『プロタゴラス』篇における徳の教示可能性の問題と快楽論	1～21
		田畑 真美	「慈悲」・「和」・「実」 —『葉隠』における奉公人倫理—	23～40
		岩井 瑞枝	フランソワ1世治世下(1515-1547)における宮廷祭礼とフォンテーヌブロー派の芸術	41～76
		山崎 けい子	日本語学習における「学習カウンセリング」の役割 —談話構造の分析からの考察—	77～93
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	How did Newton appreciate Shakespeare? NO.1	95～107
		大工原 ちなみ	ユダヤ系アメリカ文学にみられる母親像について	109～118
		時 衛国	“再”的意義和用法	119～129
		Karen Fedderholdt (フェダーホルト・キャレン)	Analyses of Japanese, Danish and Finnish Emails Using Lautamatti's <i>Topical Structural Analysis</i>	131～156
第33号	2000(平成12) 年8月	田畑 真美	網島梁川における「神の子」の自覚について	1～21
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(4) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	23～57
		中井 精一・坂口 直樹	データベースソフトによる富山県言語動態地図の作製について	59～70
		Yuzuru Okumura (奥村謙)	Chaucer's <i>Parliament of Fowls</i> in Bodleian Library, MS Tanner 346: A Composite Text	71～84
		西村 隆	帝国主義のdiscourseと“Heart of Darkness”の位置	85～100
		時 衛国	关于程度副词“太”的一些问题	104～113
		РОГОЗНАЯ Н.Н. (ロゴズナヤ・ニーナ)	МЕТОДИЧЕСКИЕ УКАЗАНИЯ ПО ОТБОРУ И МИНИМИЗАЦИИ ЯЗЫКОВОГО МАТЕРИАЛА ПРИ СОСТАВЛЕНИИ УЧЕБНОГО П ОСОБИЯ ДЛЯ ЯПОНЦЕВ	115～131
		大野 圭介	『山海経』海外四経原始	133～158※
		田村 俊介	伊勢物語三段階成立論続貂第二 —六つの批判への再反論と第四十五段詳述—	160～188※
第34号 (以下、ホーム ページで公開)	2001(平成13) 年3月	Nobutaka Okamura (岡村信孝)	Kants Theorie der Erfahrung	1～26
		田畑 真美	千年目の姫 —『まつら長者』考	27～46非
		加藤 重広	照応現象としてみた逆接 —「しかし」の用法を中心に—	47～78
		青木 恭子	ゼムストヴォ医師という存在 —帝政末期ロシア社会史の史料と しての可能性—	79～91非
		山崎 けい子	日本語学習における「学習カウンセリング」の役割(2) —おしゃべりの談話構造の分析—	93～108
		中村 雅之	契丹人の漢語 —漢児言語からの視点—	109～118非
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	How did Newton appreciate Shakespeare? NO.2	119～131
		FUJITA Hideki (藤田秀樹)	Feminine Otherness in John Steinbeck's "The Snake"	133～140
		北村 純一	Bauernregel とゲーテ	141～161
		村井 文夫	フランスにおける動物磁気説(1784-1787)をめぐる三つの考察	163～198非
		時 衛国	程度副词“颇”“甚”的用法	199～211
		Вечеслав Казакевич (カザケーヴィチ・ヴ エチエスラーフ)	Оправдание тоски	213～233非
第35号	2001(平成13) 年8月	田畑 真美	貝原益軒における「楽」について	1～19非
		小谷 仲男	ギリシア人植民都市アイ・ハヌムの滅亡 —中国史料からの考察—	21～30
		加藤 重広	文末助詞「ね」「よ」の談話構成機能	31～48
		神徳 昭甫	「女神」誕生 —建国神話としての『緋文字』—	49～58

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		青木 恭子	ドミートリー・ニコラエヴィチ・ジバンコフ (1853～1932) —あるゼムストヴォ医師の生涯とロシア社会—	59～82非
		Takashi NISHIMURA (西村隆)	Max Beerbohm's "The Feast": A Reassessment	83～90
		村井 文夫	メーストル フラン・マソヌリ『フランスに関する考察』	91～105非
		中島 淑恵	ボードレール『悪の花』における花 —花をめぐるレトリックの変容論のために— その1	107～120
		Вечеслав Казакевич (カザケーヴィチ・ヴエチエスラーフ)	Сад	121～140
第36号	2002 (平成14)年 3月	田畑 真美	「自暴自棄」考 —伊藤仁斎の考えに即して—	1～17非
		小谷 仲男	バーミアーン石窟と弥勒信仰	19～42
		加藤 重広	言語使用者における動機のある方について	43～49
		海老原 直邦・吉田 真奈美	顔の認知における視点変化の影響	51～66非
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(5) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	67～99
		山崎 けい子	チューター活動における日本人学生の意識変化	101～114非
		小川 洋通	発話者・解読者・脈絡	115～124
		Taro KUSANAGI (草薙太郎)	How did Newton appreciate Shakespeare? NO.3	125～139
		FUJITA Hideki (藤田秀樹)	The Encounter with the Nocturnal Side of the Psyche: Truman Capote's "A Tree of Night"	141～147
		Fumio MURAI (村井文夫)	Du magnétisme à la théorie de l'amour —Sur <i>Le Magnétiseur amoureux</i> de Charles de Villers—	149～158非
		田村 俊介	光源氏物語現行形態試論第七 —長編始発説の意義—	159～186※
第37号	2002 (平成14)年 8月	田畑 真美	「命を知る」考 —荻生徂徠『学則』を中心に—	1～17
		湯川 純幸	「母は変化球を投じた」 —沈黙による会話の支配と対抗的言語実践—	19～36非
		小野 直子	アメリカ合衆国における出産の病院化と産科学の台頭	37～57非
		高橋 浩二	北近畿系統の土器と山陰系統の土器 —越中弥生後期・終末期における日本海沿岸交流の諸段階—	59～69
		草薙 太郎	シェイクスピア学と科学技術社会論	71～112
		高安 和子	英語の中間構文について	113～120非
		FUJITA Hideki (藤田秀樹)	The Initiatory Journey in <i>Stand by Me</i>	121～129
		大野 圭介	古代中国における地理認識	130～156※
第38号	2003 (平成15)年 3月	岡村 信孝	カントにおける知と信の確実性の問題(上)	1～23
		田畑 真美	自己反求、或いは倫理学的諸問題の検討 —仁斎学と徂徠学に即して—	25～43
		小谷 仲男	ガンダーラ仏教における廻向儀礼	45～71
		徳永 洋介	遼金時代の法典編纂(上)	73～85非
		加藤 重広	語用論的に見た「可能」の意味	87～98
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(6) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	99～115
		藤野 真子	初期滬劇上演資料初探	117～128
		青木 恭子	帝政末期ロシアの農民世帯分割と「土地不足」	129～153非
		西村 隆	Joseph Conradと <i>Blackwood's Magazine</i> —J.Landers, "The Story of James Barker"と"Heart of Darkness"—	155～168
		鈴木 景二	加賀藩前田土佐守家伝来の賢聖障子粉本	169～184※
第39号	2003 (平成15)年 8月	黒川 光流・若林 美江	2者の対面的コミュニケーションにおいて好悪感情が発言行動に及ぼす影響	1～16
		立川 健治	幕末・長崎における競馬場設置問題	17～45
		小野 直子	アメリカ合衆国における医療の専門職化と産児制限	47～65
第40号	2004 (平成16)年 3月	田畑 真美	「学」における「苦」の位置づけ —石田梅岩『都鄙問答』に即して—	1～18
		喜田 裕子	過敏型自己愛人格障害を抱える青年の心理療法 —『穴』になったセラピスト—	19～39非
		佐藤 裕	チャットのトランスクリプト	41～57

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		伊藤 智樹	初期社会学自己論の再検討 — 物語自己論の立場から見た G.H.ミード自己論の意義と限界—	59 ~ 83
		神徳 昭甫	日本開国 — 異文化交錯の劇空間	85 ~ 167
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」が表す米国の特徴 その一	169 ~ 181
		西村 隆	ジョウゼフ・コンラッドと『ブラックウッズ・マガジン』 —19世紀末のイギリス文芸と帝国主義—	183 ~ 195
		大工原 ちなみ	時代と人生を映す鏡としての <i>Mr. Vertigo</i>	197 ~ 210
		Chinami AKAO (赤尾千波)	A Study of <i>Star Wars</i> Series Part 1 Mamma, Mulatto, and Hot Mama: Images of Female Aliens in the <i>Star Wars</i> Movies	211 ~ 225
		小川 洋通	スポーツとことばと文化	227 ~ 235
		村井 文夫	カゾットとフランス革命	237 ~ 259非
		金子 幸代	『人形の家』上演研究 序説 — 「女子文壇」と「青鞵」を視座として—	260 ~ 272非
第41号	2004 (平成16) 年 8 月	田畑 真美	倫理学試論—自己と他者をつなぐもの(1) アポリアとしての他者探究(上)『行人』 一郎の問いの在処	1 ~ 23
		神徳 昭甫	国際文化論とは何か 一定義化への試み—	25 ~ 38
		青木 恭子	帝政末期ロシアのシベリア移住政策(1881 ~ 1904)	39 ~ 61
		森賀 一恵	「始」の去聲音について	63 ~ 70
		大工原 ちなみ	<i>Mr. Vertigo</i> における浮き沈み	71 ~ 84
第42号	2005 (平成17) 年 2 月	田畑 真美	倫理学試論—自己と他者をつなぐもの(1) アポリアとしての他者探究(下)『行人』 一郎の問いの在処	1 ~ 10
		加藤 重広	基幹格としての「が」とその特性 — 日本語格助詞試論1—	11 ~ 22
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(7) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	23 ~ 36
		山崎 けい子・池田 裕	留学生教育に関するピリーフ(beliefs) —アンケート調査結果から見た理系：文系の差異—	37 ~ 50
		小川 洋通	日英語比較対照 — 主語・動詞をめぐって—	51 ~ 61
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」が表す米国の特徴 その二	63 ~ 70
		金子 幸代	日本近代劇再考 — 『オセロ』上演と鷗外の「歌舞伎」—	72 ~ 82※
第43号	2005 (平成17) 年 8 月	呉人 恵・芦 英順・ 加藤 重広	指示詞の照応用法に関する日本語と中国語の対照研究	1 ~ 22
		黒川 光流	初対面時の会話において部屋の環境が発話および印象に及ぼす影響	23 ~ 34
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(8) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	35 ~ 43
		森賀 一恵	『周禮』の「壹」と「參」	45 ~ 57
		恒川 正巳	授業デザインのグラウンドワーク — 授業の目的と教師の役割—	59 ~ 74
		Chinami AKAO (赤尾千波)	The Phantom Menace of "Specieist" Characterization — <i>Star Wars</i> Studies Part 2—	75 ~ 90
		小川 洋通	日英比較表現論	91 ~ 103
		宮内 伸子	『ホーガース銅版画の詳細な解説』に見られるリヒテンベルクの機知とユーモアについて：ジャン・パウルとフロイトの機知論を手がかりに	105 ~ 119
		中沢 敦夫・吉田 俊則	『1649年会議法典』翻訳と注釈(1)	121 ~ 159
		夏 嵐	中国話劇史上の翻案現象について —1949年までの場合	161 ~ 178
		Вечеслав Казакевич	Русское слово в мечтах о руке и сердце	179 ~ 185
		金子 幸代	日本近代劇再考二 —メーテルリンク『モンナ・ワンナ』と鷗外の「歌舞伎」—	186 ~ 194※
第44号	2006 (平成18) 年 2 月	草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア=ベアコン説を検証する その一	1 ~ 21
		大工原 ちなみ	Abraham Cahan, <i>The Rise of David Levinsky</i> 論 —社会進化論的視点から—	23 ~ 38
		森賀 一恵	孫詒讓の「古今字」	39 ~ 85
		金子 幸代	日本近代劇再考Ⅲ —イブセン劇と鷗外の「歌舞伎」	87 ~ 98※

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁		
第45号	2006 (平成18) 年 8 月	田畑 真美	徂徠における自己定位 —「天」と「人」のあいだ—	1 ~ 11		
		喜田 裕子・ 内沢 沙紀子	心理臨床におけるロールプレイ実習の基礎的研究 —初学者は、どのように行き詰まるのか—	13 ~ 29		
		徳永 洋介	遼金時代の法典編纂(下)	31 ~ 53		
		神徳 昭甫	恐山のイタコ：報告と考察 —闇の中の開眼—	55 ~ 70		
		小野 直子	アメリカ合衆国における妊産婦死亡率と産科医療政策	71 ~ 84		
		山口 幸祐・ 藤本 紗貴子	未明童話における「色彩語」について —調査報告—	85 ~ 139		
		磯部 祐子	浙江における灘簧系演劇の再興	141 ~ 154		
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア=ペーコン説を検証する その二	155 ~ 165		
		黒田 廉	言語運用からみた除去動詞の「場所格交替」	167 ~ 174		
		中沢 敦夫・吉田 俊則	『1649年会議法典』翻訳と注釈(2)	175 ~ 220		
		金子 幸代	日本近代劇再考IV —『ブルムウラ』と鷗外の「歌舞伎」—	222 ~ 234※		
第46号	2007 (平成19) 年 2 月	永井 龍男	アルゴリズムの問題としてのゼノンのパラドクス —運動否定第一・第二議論の構造と解決—	1 ~ 36		
		澁谷 由里	「満洲国」崩壊後の戦犯問題	37 ~ 57		
		伊藤 智樹	自己物語の多声性 —3つの事例によるナラティブ分析—	59 ~ 73		
		神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(9) —23部族の伝承と習慣— エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	75 ~ 87		
		末岡 宏	「厳復の中体西用論批判について」	89 ~ 99		
		小野 直子	開頭術から帝王切開へ —アメリカ産科学における医学的権威の拡大—	101 ~ 118		
		山口 幸祐・ 藤本 紗貴子	未明童話における「色彩語」について(続) —調査結果からの考察—	119 ~ 131		
		高安 和子	話題化	133 ~ 141		
		藤田 秀樹	飛翔する少女メシアと「火」を偏愛する皇女 —宮崎駿『風の谷のナウシカ』論	143 ~ 154		
		村井 文夫	メーストルと「コントロール=レヴォリュション」 —『サンクト・ペテルブルグのソフレ』をめぐる—	155 ~ 173		
		中沢 敦夫・吉田 俊則	『1649年会議法典』翻訳と注釈(3)	175 ~ 222		
		夏 嵐	中国での翻訳劇の上演 —1929年から1937年までの場合—	223 ~ 240		
		金子 幸代・中村 真也	愛読諸嬢の冒険 —国際化と登山から見る「女子文壇」の研究—	241 ~ 266※		
		第47号	2007 (平成19) 年 8 月	徳永 洋介	元好問と耶律履の一族	1 ~ 19
				高橋 浩二	富山市古沢塚山古墳の再測量とその評価	21 ~ 29
神徳 昭甫 訳	北米インディアンの生活(10) —23部族の伝承と習慣 エルシー・クルーズ・パーソンズ編著			31 ~ 59		
末岡 宏	厳復の伝統思想理解について			61 ~ 74		
Takashi Suzuki (鈴木孝志)	<i>Epiphanies in Dubliners</i>			75 ~ 81		
草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア=ペーコン説を検証し、特に「テロ対策」との関連を探るその一			83 ~ 137		
村上 恭子	デリー口の <i>Mao II</i> —新しい歴史の体験としてのポストモダニズム			139 ~ 153		
William R. Holden III (ウィリアム ホールデン)	A Case for Extensive Reading as a Component of English Language Education in Japan			155 ~ 170		
Вечеслав Казакевич (カザケーヴィチ ヴェチェスラフ)	РУССКОЕ СЛОВО В ЧУЖОЙ ЗЕМЛЕ			171 ~ 183		
田村 俊介	『八重葎』の姫君の真実と心象—『源氏物語』の大君と浮舟の投影—			185 ~ 196※		
金子 幸代	日本近代劇再考V —『玉篋雨浦嶼』と鷗外の「歌舞伎」—	198 ~ 216※				
第48号	2008 (平成20) 年 2 月	小野 直子	一般医か専門医か—20世紀初頭アメリカ合衆国における産科学教育—	1 ~ 25		
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア=ペーコン説を検証し、特に「テロ対策」との関連を探るその二	27 ~ 85		
		大工原 ちなみ	Saul Bellow の <i>A Theft</i> における様々な喪失について	87 ~ 97		

	出版年・月	執筆者	タイトル	頁
		村井 文夫	ハーン オールコット 黒田 －「東洋第一日」と「ニルヴァーナ」をめぐって－	99～123
		呉羽 長	『藤原義孝集』の歌風	126～138※
		金子 幸代・中村 真也	(新しい女)とは何か －一九一三年における「女子文壇」の文化史的研究－	140～164※
第49号	2008(平成20) 年8月	岡村 信孝	名誉と恥 ー西洋近世哲学の遺産ー (上)	1～17
		呉人 恵・趙 虹	日本語の接尾辞「-的」の意味論および統語論的一考察	19～43
		神徳 昭甫 訳	「北米インディアンの生活(11)ー23部族の伝承と習慣ー エルシー・クルーズ・パーソンズ編著	45～97
		小助川 貞次	敦煌加标点を巡る研究課題	99～111
		森賀 一恵	史焔『通鑑釋文』と胡三省『音注資治通鑑』	113～139
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア＝バーコン説を検証し、特に「テロ対策」との関連を探るその三	141～192
		村上 恭子	ポストモダンリズム小説における想像・創造力の諸相 ーRobert Cooverの <i>The Universal Baseball Association, Inc., J. Henry Waugh, Prop.</i> の場合ー	193～205
		阿部 美規	ドイツ語正書法改革の改革について一分かち書き・続け書き規則 §34および§36の場合ー	207～217
		中島 淑恵	「ルネ・ヴィヴィアンの三つのイメージ」ー翻訳と解説ー	219～237
		中沢 敦夫・吉田 俊則	『1649年会議法典』翻訳と注釈(4)	239～297
		Wm.R.Holden III	Extensive Listening: A new approach to an old problem	299～312
		大野 圭介	『山海経』五蔵山経と『管子』	313～340※
		田村 俊介	『八重葎』注釈(上)	342～376※
		金子 幸代・伊藤 恵理	女性雑誌と職業 －一九一〇年～一九一三年における「女子文壇」の文化史的研究Ⅱ－	377～400※
第50号	2009(平成21) 年3月	岡村 信孝	名誉と恥 ー西洋近世哲学の遺産ー (中)	1～22
		安藤 智子	ロシア語母語話者に対する無意味語アクセント調査	23～41
		佐藤 裕	権力と社会的カテゴリー ー権力行為論(1)ー	43～61
		神徳 昭甫	報告と考察：アメリカ先住民の宗教 ー「ラコタ・スー族」を中心にー	63～104
		末岡 宏	清代の中体西用論と西学中源説について	105～118
		小野 直子	アメリカ合衆国における優生断種の開始	119～142
		山口 幸祐	未明童話における「雲」の描写法(1) ー白系と黒系の色彩語に触れてー	143～150
		草薙 太郎	「データベース：米国シェイクスピア研究学位論文」からシェイクスピア＝バーコン説を検証し、特に「テロ対策」との関連を探るその四	151～187
		中沢 敦夫・吉田 俊則	『1649年会議法典』翻訳と注釈(5)	189～212
		夏 嵐・磯部 祐子・森賀 一恵	丁西林「一只馬蜂」の改編と翻訳 ー大学における中国語独幕劇上演のためにー	213～250
		田村 俊介	『八重葎』注釈(中)	251～274※
		呉羽 長	『源氏物語』「御法」巻の主題性をめぐって ー語り手の紫上との一体化の表現に着目してー	276～288※
		金子 幸代	フェミニズムと現代女性文学 ー映像から考える桐野夏生の『魂萌え！』ー	290～304※
				『富山大学人文学部紀要』総目録・著者名索引

著 者 名 索 引

【あ行】

青木恭子 34、35、38、41
 赤尾千波 40、43
 赤阪 賢 7、12、13、15
 秋山進午 4、7、15
 浅井 亨 5、7、24
 麻生亜希恵 27
 阿部美規 49
 安藤智子 50
 池田 裕 42
 石田安弘 4、8、10
 磯部 彰 5、7～10、11～21、
 23～25
 磯部祐子 45、50
 一ノ瀬恵 24、25、30、43、49
 (呉人恵)
 伊藤智樹 40、46
 伊藤美重子 20、24～26
 伊藤恵理 49
 岩井瑞枝 22、32、50
 岩永 誠 20
 内沢沙紀子 45
 宇野隆夫 25、26、28
 海老原直邦 20、36
 太田茂徳 23～26
 大野圭介 28、30、33、37、49
 岡村信孝 21、24、34、38、49、
 50
 岡本 明 1
 小川洋通 8～10、12～14、16、
 19、26、36、40、42、
 43
 奥田平八郎 8、10、14、18、20
 奥村 讓 22、33
 小谷仲男 6、7、10、13、17～
 22、30、31、35、36、
 38
 小野直子 37、39、45、46、48、
 50

【か行】

夏 嵐 43、46、50
 梶井 陟 4、5、7、8、11
 勝野良一 21

加藤重広 26～31、34～36、
 38、42、43
 金子幸代 40、42～50
 鎌田元一 7
 河村貞枝 15、17、18
 川本栄一郎 10、12～14、16～19
 神前進一 9
 岸田文隆 21～23、30
 北村純一 5、8、10、13、14、
 19、34
 喜田裕子 40、45
 木下 喬 2、8、16
 木下 良 7
 釘貫 亨 6、7、11、14、19
 草薙太郎 4～6、8～10、12、
 13、15～20、22、24、
 28、32、34、36、37、
 40、42、44、45、47
 ～50
 櫛木謙周 8、9、12、15
 楠瀬 勝 5、7
 呉羽 長 48、50
 呉人 恵 24、25、30、43、49
 (一ノ瀬恵)
 黒川光流 39、43
 黒田 廉 45
 呉 麗艶 20～22
 神徳昭甫 23～26、29、31、33、
 35、36、38、40～47、
 49、50
 小助川貞次 49
 小林千重乃 17

【さ行】

齋藤孝滋 24、27
 坂口直樹 33
 提山淑郎 1、9、13
 佐藤 進 2、7、15
 佐藤朋之 24
 佐藤 裕 40、50
 三宝政美 1、4、6～8、11、14
 ～17、19、22、24
 時 衛国 31～34
 (时卫国)
 澁谷由里 46

朱 継征 28
 末岡 宏 46、47、50
 鈴木景二 30、38
 鈴木孝志 47
 鈴木敏昭 4、7、10、17、20、
 27、31

【た行】

大工原ちなみ 20、22、26、32、40、
 41、44、48
 高稲 環 24
 高橋浩二 37、47
 高安和子 20～22、24、25、37、
 46
 竹内詩乃 27
 立川健治 20、22～26、31、39
 谷井俊仁 19
 田畑真美 30～38、40～42、45
 田村俊介 18、19、25、27、30、
 31、33、36、47、49、
 50
 檀上 寛 15
 趙 虹 49
 筒井洋一 20、24
 都竹通年雄 4、7
 恒川正巳 21～24、26、43
 手崎政男 1、3
 寺津典子 1～6
 徳永洋介 38、45、47

【な行】

中井精一 33
 永井龍男 14、19、24、32、46
 中河伸俊 22、23
 中沢敦夫 43、45、46、49、50
 中島淑恵 35、49
 永田英正 3、4
 長沼忠兵衛 3、6、7
 中 純夫 25、26
 中村真也 46、48
 中村雅之 17、18、20、34
 中本昌年 2～6、8、9、12～
 14、16、18
 成田 節 20

西村 隆 29、31、33、35、38、
40
丹羽弘一 26
根津由喜夫 17、19

【は行】

服部良久 8、10、13、15
平田 純 9、11、15
福田立明 12、17、20、22
藤井一行 3、4、7、9
藤田秀樹 24、28、29、31、34、
36、37、46
藤野真子 38
藤本紗貴子 45、46
藤本幸夫 5、7、11
夫馬 進 4、7、11
別本明夫 22、25～27
彭 国躍 23～26
本田 弘 1、2、6～8、13、19、
20

【ま行】

前川 要 17、18
水内俊雄 16
宮内伸子 20、22、30、43
宮嶋俊明 24
村井文夫 5、6、10、18～20、
22、24、28、34～36、
40、46、48
村上恭子 47、49
森賀一恵 41、43、44、49、50

【や行】

矢沢英一 3、5～8、11、13、
18、20、22
山口幸祐 6、8、11～14、19、
23、45、46、50
山口 博 1、7
山崎けい子 32、34、36、42
山崎幸雄 2
山村 敬 5、9
山本富美子 26
湯川純幸 23、25、26、37
吉田 清 2、5、8、11、14、15、
18、19
吉田俊則 43、45、46、49、50
吉田真奈美 36

【5行】

芦 英順 43

【わ行】

若林美江 39
和崎洋一 7、10
和田晴吾 7

【外国語】

Barbara Reichl
19
Elizabeth Balestrieri
13、14、16、18
Georg J. Anker
18
Gregor Häfliger
9
Th.R.Hofmann
(トーマス=ホフマン)
5～10、12
James B.Brown
2
Karen Fedderholdt
(フェダーホルト・キャレン)
23、25、29、32
M.Kugelmeier
12
Mary Ann Mooradian
(ムラジアン・マリアン)
24、25
Roland Schmidt
1
Sabine Lobe 25、27、31
William R. Holden III
(ウィリアム ホールデン)
47、49
Вечеслав Казакевич
(カザケーヴィチ・ヴェチエスラーフ)
34、35、43、47
Рогозная Н.Н.
(ロゴーズナヤ・ニーナ)
28～31、33
夏 嵐 43、46、50
呉 麗艶 20～22
时 卫国 31～34
(時 衛国)

朱 継征 28
彭 国躍 23～26
芦 英順 43
趙 虹 49